



しあわせ信州

次代へつなぐ、笑顔あふれる
信州の **食** と **農業** ・ **農村**
第3期 長野県食と農業農村振興計画

令和3年度実績レポート

令和4年9月
長野県

《 目 次 》

レポートの総括	1
第1章 令和3年度の特徴的な動き・トピックス	7
第2章 本県の食と農業・農村の動向	23
・令和3年産農業農村総生産額	
・農産物主要品目の令和3年産生産実績	
第3章 施策の展開別実施状況	
基本方向Ⅰ 次代へつなぐ信州農業	
(1) 施策展開1 次代を担う経営体の育成と人材の確保	35
ア 企業マインドで信州農業を支える中核的経営体の育成	
イ 中核的経営体を支える雇用人材の安定確保	
ウ 次代の信州農業を担う新規就農者の確保・育成	
エ 地域農業を支える多様な農業経営体等の確保・育成	
(2) 施策展開2 消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産	42
ア マーケットニーズに応える競争力の高い信州農畜産物の生産	
イ 環境農業の推進と農畜産物の安全性の確保	
ウ 次代を拓く新品種・新技術開発と普及活動の展開	
エ 稼ぐ農業を支える基盤整備の推進	
(3) 施策展開3 需要を創出するマーケティング	60
ア プレミアム・オリジナル・ヘリテイジによるブランド力の強化	
イ マーケットインによる農畜産物の需要創出	
ウ 世界に求められる信州農畜産物の戦略的な輸出促進	
エ 稼ぐ6次産業化ビジネスの展開	
基本方向Ⅱ 消費者とつながる信州の食	
(1) 施策展開4 本物を味わう食と食し方の提供	66
ア 「おいしい信州ふーど」の取組による信州産食材の魅力発信	
イ 食の地消地産と農産物直売所の機能強化	
(2) 施策展開5 しあわせな暮らしを支える豊かな食の提案	68
ア 未来を担う子どもたちへの信州の食の伝承	
イ 地域ぐるみで取り組む食育の推進	
基本方向Ⅲ 人と人がつながる信州の農村	
(1) 施策展開6 持続的な農業生産活動を支える基盤づくり	70
ア 持続的な営農を支え、暮らしを守る農村環境の整備	
イ 都市住民との協働など皆に理解されて進める多面的機能の維持	
(2) 施策展開7 多様な人材の活躍による農村コミュニティの維持	73
(3) 施策展開8 地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用	75
第4章 地域別の取組状況	
(1) 佐久 地域の取組	78
(2) 上田 地域の取組	80
(3) 諏訪 地域の取組	82
(4) 上伊那 地域の取組	84
(5) 南信州 地域の取組	86
(6) 木曾 地域の取組	88
(7) 松本 地域の取組	90
(8) 北アルプス地域の取組	92
(9) 長野 地域の取組	94
(10) 北信 地域の取組	96
第5章 重点的に取り組む事項の取組実績	
(1) 経営のイノベーション	100
(2) 生産のイノベーション	102
(3) マーケティングのイノベーション	104
ア 園芸県長野の振興	
イ 信州農産物等の輸出拡大	
ウ 食品産業の信州農畜産物利用拡大	
(4) 農村の活性化	107
第6章 参考資料	
・令和3年度主な農業関係表彰事業受賞者一覧	110

レポートの総括

第3期長野県食と農業農村振興計画（以下「振興計画」という。）レポートは、「長野県食と農業農村振興の県民条例」第8条に規定された、県が講じた食と農業・農村の振興に関する施策の実施状況の長野県議会への報告及び概要公表となるものであるとともに、食と農業・農村の振興に関して県が講じた施策の状況や背景等について、広く県民の皆さんにわかりやすく情報提供することを目的に作成した年次報告書です。その概要は以下のとおりです。

1 食と農業・農村の経済努力目標の進捗状況

◆ 農業農村総生産額

令和3年産の農業農村総生産額(推計)は3,018億円となり、前年と比べて101億円の減少(対前年比96.8%)となりました。その内訳及び概要については、以下のとおりです。

➤ 農産物産出額

令和3年産の農産物産出額(推計)は2,817億円となり、前年に比べて109億円の減少(対前年比96.3%)となりました。

これは、花きなどの一部の農産物については、新型コロナウイルス感染症により減少した需要が回復傾向にあり増加したものの、米は、需給バランスの悪化により価格が下落したこと、野菜は、豊作により本県主力の葉物野菜を中心に価格が安価であったこと、果実は、春先の凍霜害の影響などにより主にりんごの生産量が大幅に減少したことなどによるものです。

➤ 農業関連産出額

農業関連産出額(推計)は201億円となり、前年に比べて8億円の増加(対前年比104.1%)となりました。これは、ECサイトの活用やWeb商談会への参加等の販売力強化の取組により、農産加工の産出額が増加したことなどによるものです。

<長野県の農業農村総生産額（長野県推計）>

区 分	H27年 (基準年)	R2年	R3年	前年対比 3年/2年	R4 (目標年)	目標対比
農業農村総生産額	億円 3,118	億円 3,119	億円 3,018	% 96.8	億円 3,300	% 91.5
農産物産出額	2,916	2,926	2,817	96.3	3,000	93.9
農業関連産出額	202	193	201	104.1	300	67.0

2 達成指標の進捗状況

進捗管理を行っている26指標29項目のうち、第3期計画の令和3年度の目標を達成した項目数は**15**項目(対前年比2項目増)でした。達成率8割以上の項目を含めると**24**項目(対前年同数)でした。

令和3年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛等の影響により、「信州ブランド魚の生産量」や「都市農村交流人口」などが目標値を大幅に下回りました。

◆ 振興計画目標を達成した12項目 (■は振興計画最終年(令和4年度)の目標を達成した項目)

- 中核的経営体
- 集落営農組織数
- 効率的な水田農業経営を行う経営体の面積割合
- 果樹戦略品種等の栽培面積
- 夏秋期のレタス、はくさい、キャベツの全指定産地出荷量に占める契約割合
- 信州プレミアム牛肉の認定頭数
- 国際水準GAP認証の取得件数
- 農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数
- 「おいしい信州ふード」SHOP登録数
- 県農産物等の輸出額
- 売上高1億円以上の農産物直売所数
- 荒廃農地解消面積
- 地域おこし協力隊員の定着率
- 農業用水を活用した小水力発電の設備容量

□ 新たに観光資源として環境整備された疏水等の箇所数

◆達成指標別進捗状況一覧

2021年度(R3)目標値 に対する達成率	100%以上	80%以上 100%未満	50%以上 80%未満	50%未満	その他	合計
達成指標項目数 (割合)	15 (52%)	9 (31%)	2 (7%)	3 (10%)	0 (0%)	29 (100%)

施策展開	No.	項目 (達成指標は26指標29項目)		平成28年 (基準値)	令和2年	令和3年	令和4年 (目標年)	R3実績値 / R3目標値	R3実績値 / R4目標値
【I-1】 次世代を担う の育成と確保	1	■中核的経営体数	経営体	計画値	9,735	9,800	10,000	102%	100%
				実績値	8,998	9,948	10,044		
	2	法人経営体数	法人	計画値	1,040	1,060	1,080	98%	96%
				実績値	958	1,020	1,042		
	3	法人経営体の常雇用者数	人	計画値	6,940	7,020	7,170	90%	88%
				実績値	6,420	7,073	6,290		
4	新規就農者数(45歳未満)	人/年	計画値	250	250	250	72%	72%	
			実績値	224	173	181			
5	■集落営農組織数	組織	計画値	337	342	350	112%	109%	
			実績値	327	350	383			
【I-2】 消費者に 信じてもらえる 畜産物の生産	6	効率的な水田農業経営を行う経営体数	経営体	計画値	746	777	800	94%	92%
				実績値	615	719	734		
	7	■効率的な水田農業経営を行う経営体の面積割合	%	計画値	41.4	43.2	45.0	110%	106%
				実績値	35.1	45.1	47.5		
	8	実需者ニーズの高い県オリジナル品種の普及面積(米・麦・そば・大豆)	ha	計画値	2,909	3,136	3,370	96%	89%
				実績値	2,000	2,777	3,003		
	9	□果樹戦略品種等の栽培面積	ha	計画値	2,501	2,626	2,826	105%	98%
				実績値	1,884	2,534	2,768		
	10	りんご高密度・新しい化栽培面積	ha	計画値	558	647	735	91%	80%
				実績値	257	520	590		
	11	■夏秋期のりんご、はくさい、キャベツの全指定産地出荷量に占める契約割合	%	計画値	38.8	39.7	40.8	131%	127%
				実績値	36.1	56.6	52.0		
	12	■信州プレミアム牛肉の認定頭数	頭	計画値	3,800	3,800	3,800	104%	104%
				実績値	3,477	4,336	3,937		
13	信州ブランド魚の生産量(信州サーモン、信州大王イワナ)	t	計画値	440	475	485	75%	74%	
			実績値	345	355	357			
14	■国際水準GAP認証の取得件数	件	計画値	41	41	42	127%	124%	
			実績値	14	44	52			
15	□農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数	箇所	計画値	30	36	44	103%	84%	
			実績値	—	29	37			
【I-3】 需要を創出する	16	「おいしい信州フード」運動協賛企業・団体数	団体	計画値	70	85	100	39%	33%
				実績値	31	32	33		
	17	□「おいしい信州フード」SHOP登録数	店舗	計画値	1,500	1,550	1,600	101%	98%
				実績値	1,298	1,530	1,561		
18	県が主催する商談会における農業者等の成約件数	件/年	計画値	310	330	350	33%	31%	
			実績値	208	141	108			
19	□県産農産物等の輸出額	億円	計画値	15	17.5	20	101%	89%	
			実績値	5.6	14.9	17.7			

施策展開	No.	項目 (達成指標は 26 指標 29 項目)		平成 28 年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	R3 実績値	R3 実績値	
				(基準値)			(目標年)	／ R3 目標値	／ R4 目標値	
【Ⅱ-4】味と食の提供	19	■売上高 1 億円以上の農産物直売所数	施設	計画値		58	59	60	107%	105%
				実績値	52	58	63			
		売上高 1 億円以上の農産物直売所の売上総額	億円	計画値		180	190	200	93%	88%
				実績値	151	170	176			
【Ⅱ-5】しあわせな食の提案	20	学校給食における県産食材の利用割合	%	計画値		47.0	47.5	48.0	99%	98%
				実績値	45.7	*49.6	47.0			
【Ⅲ-6】持続的な農業活動の推進	21	地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	ha	計画値		47,239	48,520	49,800	94%	92%
				実績値	40,827	45,986	45,783			
	22	■荒廃農地解消面積	ha/年	計画値		1,000	1,000	1,000	133%	133%
				実績値	991	1,175	1,329			
【Ⅲ-7】多様な人材の活躍の促進	23	都市農村交流人口	人/年	計画値		669,000	680,000	690,000	29%	29%
				実績値	624,909	173,853	198,849			
24	■地域おこし協力隊員の定着率	%	計画値		75.0	75.0	75.0	104%	104%	
			実績値	69.2	85.0	78.3				
【Ⅲ-8】地域の活性化と観光資源の活用	25	■農業用水を活用した小水力発電の設備容量	kW	計画値		3,650	3,900	4,000	105%	103%
				実績値	2,184	3,613	4,103			
	26	□新たに観光資源として環境整備された疏水等の箇所数	か所	計画値		15	20	25	100%	80%
				実績値	—	15	20			

※ No.20「学校給食における県産食材の利用割合」は、新型コロナウイルス感染症対策に伴う学校の負担軽減の観点から調査回数を減らした（2回→1回）ため、R2年は参考値扱いとする

<参考> R3 目標値に対する達成割合別の指標項目数の詳細

基本方向	指標項目数	100%以上	100~90	90~80	80~70	70~60	60~50	50%未満	その他
【Ⅰ-1】	6	2	1	2	1				
	割合	33%	17%	33%	17%				
【Ⅰ-2】	10	6	3		1				
	割合	60%	30%		10%				
【Ⅰ-3】	4	2						2	
	割合	50%						50%	
【Ⅱ-4】	2	1	1						
	割合	50%	50%						
【Ⅱ-5】	1		1						
	割合		100%						
【Ⅲ-6】	2	1	1						
	割合	50%	50%						
【Ⅲ-7】	2	1						1	
	割合	50%						50%	
【Ⅲ-8】	2	2							
	割合	100%							
計	29	15	7	2	2			3	
	割合	52%	24%	7%	7%			10%	

3 施策の展開別実施状況

基本方向Ⅰ 次代へつなぐ信州農業

施策展開1 次代を担う経営体の育成と人材の確保

- 将来にわたる本県農業生産の維持・発展に向けて、次代を担い、本県農業を支える**中核的経営体の確保**や中核的経営体への**農地の集積を促進**するため、市町村や農業委員会と連携した「人・農地プラン」の実質化への支援や農地中間管理事業を活用した農地の集積・集約化などの取組を進めました。
- 経営継承による営農の継続、経営発展等に向けて、**法人経営体の育成**や**経営体を支える雇用者を安定確保**するため、農業経営管理能力向上セミナーの開催、農業労働者マッチングアプリの導入による農繁期の労働力確保、長崎県と連携した特定技能外国人の「リレー雇用」の実施などの取組を進めました。
- 中核的経営体の安定的な確保・育成に向けて、**新規就農者を安定的に確保**するため、コロナ禍に対応した「オンライン就農相談会」の開催や県内農業高校生を対象にしたセミナー、地域の先進農家での研修や次代の担い手を育成する農業大学の授業の充実などの取組を進めました。
- 地域農業を支える**多様な農業経営体の確保・育成**に向けて、集落営農の法人化のための各種研修会の開催や農福連携の推進を図るための動画作成・配信などの取組を進めました。

施策展開2 消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産

- **土地利用型作物（米・麦・大豆・そば）**では、**県オリジナル品種の生産拡大**を図るため、「風さやか」の食味コンテストの開催やSNS等を活用したPR活動を行った他、水田の複合化を推進するため、白ネギのモデルほ場を設置するなど**高収益な水田農業の展開**に向けた取組を進めました。
- **果樹**では、全国屈指の**果樹産地の維持・発展**に向けて、令和3年度に本格デビューした「クイーンルージュ®」のプロモーション活動や安定生産、品質向上を図るための研修会の開催の他、りんご高密度植栽培の導入推進に向けた取組を進めました。
- **野菜**では、**高品質な果菜類等の生産拡大**に向けて、スマート施設園芸のモデル園の設置やアスパラガス、夏秋いちごの栽培検討会の開催の他、**中山間地域の生産振興**を図るため、「信州の伝統野菜」のロゴマークの商標登録や情報発信の強化などの取組を進めました。
- **花き**では、**多様なニーズに対応した花き生産の推進**と**コロナ禍における需要の創出**のため、フラワーデザインコンテスト等による信州サマーフラワーフェスティバルや小学生を対象とした花育体験教室の開催など需要喚起の取組を進めました。
- **きのこ**では、**生産コストの削減や安全対策の向上による経営の安定化**を図るため、若手指導者向けの技術研修会や近年課題となっている異物混入防止及び害菌対策の研修会の開催などの取組を進めました。

- **畜産**では、**先端技術の活用等による生産の向上**と信州プレミアム牛肉などの**特徴ある畜産物の生産拡大**を図るため、経腔採卵技術を活用した体外受精卵の生産や補助事業の活用によるスマート畜産機械の導入推進などの取組を進めるとともに、**バイオセキュリティ対策の徹底**など、豚熱等の予防対策や発生時に備えた危機管理体制の整備などの取組を進めました。
- **水産**では、実需者に高く評価されている**信州ブランド魚（信州サーモン、信州大王イワナ）等の利用拡大**を図るため、小口需要に対応できる最適な冷凍加工技術の検討やコロナ禍における消費拡大対策の一環として信州サーモンの学校給食への提供やパンフレットの配布等により家庭内消費を喚起する取組を進めました。
- **環境農業**では、**時代のニーズに応える環境農業を推進**するため、未利用有機物を活用した炭素貯留導入推進や様々な方が有機農業への知見を深めるための有機農業推進プラットフォーム勉強会の開催、農業生産の基礎となるGAPの推進に関する研修会などの取組を進めました。
- **技術開発**では、**地域で有効に活用される新品種・新技術の開発**を進めるため、二期作栽培が可能で倒伏しにくい、そば新品種「**桔梗13号**」など県オリジナル品種の開発や、レタス収穫機のプロトタイプなど産学官連携によるスマート農業技術の開発、地球温暖化の適応技術の開発や影響の評価などの取組を進めました。
- **農業生産基盤の整備**では、**生産性の向上や農業用水の安定供給**に向けて、ほ場整備による果樹団地の再生や水管理の省力化のための自動給水栓の設置、長寿命化計画に基づく重要な農業水利施設（頭首工、用排水機場、水路橋等）の整備などの取組を進めました。

施策展開3 需要を創出するマーケティング

- **信州農畜産物等のブランドカの一層の強化**に向け、「おいしい信州ふード」の食材図鑑やSHOP情報の拡充とともに農産物のエシカル消費の専用ページを新たに設置するなど、情報発信の取組を進めました。
- **県産農畜産物の販路拡大**に向けて、**新たな需要の創出**を図るため、県オリジナル品種「クイーンルージュ®」や信州プレミアム牛肉のトップセールスによる信州農畜産物の魅力発信を行う他、生産者、流通・販売事業者など食に係る多様な事業者からなるプラットフォームを形成し、県産きのこを活用した新商品を開発するなどの取組を進めました。
- **県産農産物等の輸出拡大**に向けて、ぶどう、米、牛肉に関する英語版及び中国語版のPR資料の作成やシンガポールにおいて、ECサイトを展開する輸入事業者と連携したぶどう（シャインマスカット、クイーンルージュ®）等の販売チャネル拡大などの取組を進めました。

基本方向Ⅱ 消費者とつながる信州の食

施策展開4 本物を味わう食と食し方の提供

- 「おいしい信州ふード」の取組による**信州産食材の魅力発信**に向け、調理師会や地元高校生と連携した信州の伝統野菜などを活用した新たなレシピの開発や、食品事業者による「おいしい信州ふード」のロゴマークの積極的な活用支援などの取組を進めました。

- **食の“地消地産”の推進**に向けて、地域農産物の供給・魅力発信の拠点となる**農産物直売所の機能強化等を図る**ため、先進的な事例を共有するシンポジウムの開催や農産物直売所の運営手法等の経験・知識を有する人材を派遣して課題の解決を支援する事業を新たに創設するなどの取組を進めました。

施策展開5 しあわせな暮らしを支える豊かな食の提案

- **子どもたちの食への理解の深化や地域ぐるみで取り組む食育の推進**を図るため、県産ブランド食材の給食での提供と併せた食育事業の実施や、調理師会と連携した食育事業の実施、地域住民を対象とした食農教育活動等、関係機関と連携した県民運動としての食育活動の支援などの取組を進めました。

基本方向Ⅲ 人と人がつながる信州の農村

施策展開6 持続的な農業生産活動を支える基盤づくり

- **将来にわたって農村の暮らしを支えていく**ため、農業水利施設等を管理する土地改良区の運営基盤強化を図る各種研修会等を実施するとともに、ため池の耐震化工事や排水機場の改修工事を進めました。
- **農業・農村の多面的機能を持続的に発揮**するため、多面的機能支払事業及び中山間地域農業直接支払事業を活用し、農業用水路等の泥上げや草刈りなど地域ぐるみで行う取組を支援するとともに活動組織や市町村の事務負担軽減の取組を推進しました。

施策展開7 多様な人材の活躍による農村コミュニティの維持

- **魅力ある農村づくりを進める**ため、地域住民が協働して行う農村の景観づくりや水路、農道等の維持管理活動を支援するとともに、地域の特色ある農作物の生産、加工、商品開発などによるブランド化推進の取組や加工に取り組む若手女性の育成を支援しました。
- **農村コミュニティの維持・強化**に向けて、「信州農ある暮らし農園」モデル園の開設やガイドブックの制作・配布、相談センターでの相談対応など、「農ある暮らし」を志向する移住者や定年帰農者などの定着を確保する取組を支援しました。

施策展開8 地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用

- **農村の活性化**に向けて、「千曲市棚田保全推進協議会」と㈱八十二銀行が「棚田パートナーシップ協定」を締結するなど多様な主体と連携した棚田保全の取組を推進するとともに、子供向けに長野県の米づくりに関する動画資料を作成するなど、**農業資産の役割や維持管理の重要性を理解**してもらう取組を進めました。
- **農村の地域資源の活用**に向けて、小水力発電の啓発資料の配布や土地改良区等を対象とした相談会を開催するとともに、補助事業の活用による小水力発電施設の導入支援などの取組を進めました。

第 1 章

令和 3 年度の特徴的な動き・トピックス

施策展開 1 次代を担う経営体の育成と人材の確保

トピック
1

コロナ禍での就農相談会の開催！～新規就農者の確保を目指して～

○ 就農希望者が参加しやすい就農相談会を実施

コロナ禍によらず、全国各地から参加できるよう「オンラインによる就農相談会」を本年度も実施しました（50回）。一方、対面での相談を希望される方もいたことから、リアルでの相談会も新設された銀座 NAGANO の移住交流・就職相談コーナーで実施し、相談者からは落ち着いた雰囲気ですっかり相談ができたことと好評でした。



【銀座 NAGANO での就農相談会の様子】

就農相談 対応件数	年度	オンライン	対 面	その他 (電話等)	県現地機関 対応	計
	R2	146 人	129 人	79 人	493 人	847 人
R3	250 人	4 人	92 人	554 人	900 人	

トピック
2

ストップ農作業事故！～農作業事故ゼロを目指して～

○ 農作業事故防止啓発動画の作成

農業機械による農作業事故防止のため、農業大学校、(一財)日本農村医学研究所の協力のもと、乗用型草刈り機、高所作業機、スピードプレーヤーの事故防止啓発動画を作成し、YouTube に公開するなど、農業者や J A、市町村等へ広く周知しました。



【事故防止啓発動画の一場面 YouTube 動画配信】



【農作業事故体験 VR】

○ 農作業事故防止啓発活動の実施

農業者、農業大学校生、農業高校職員等を対象に、トラクター転倒シミュレーターや農作業事故体験 VR 等を活用した農作業安全研修会を開催したほか、関係機関・団体と連携した街頭啓発活動や農作業安全推進会議を行いました。

農業雇用人材・労働力の確保支援 ～コロナ禍での農業経営者支援～

○ 農業個別相談会の開催

ハローワークとの共催により、佐久や飯田など5地域で、**求職者が農業経営者と直接就業相談**を行う相談会を10回開催しました。延べ37農業経営体が50件の相談に応じ人材確保を図りました。



【農業個別相談会】

外国人を雇用する農業者の方へ
不法就労に注意してください!

不法就労は法律で禁止されています。不法就労した外国人だけでなく、不法就労させた農業者も処罰の対象となります。

在留カードは、所持する外国人が就労できるかどうかの判断が重要になっています。

外国人を雇用する際は、このリーフレットに記載されている内容をよく確認し、外国人が不法就労にならないよう注意してください。

不法就労とは	不法就労となるのは、次の3つの場合です。
1 不法滞在者が働くケース	〔例〕 ・ 密入国した人や在留期間満了後の外国人が働く。
2 在留カードの在留期間が満了後、在留期間を延長せずに働くケース	〔例〕 ・ 観光等の在留期間を目的で入国した人が働く。 ・ 留学生が許可を受けずに働く。
3 在留期間が満了後、在留期間を延長せずに働くケース	〔例〕 ・ 在留特別許可に該当する人や高技能活動許可を得た留学生等が許可期間を超えて働く。(高技能活動)

【啓発ポスター】

○ 農業の働き方改革雇用促進研修会の開催等

J A長野県農業労働力支援センターと連携し、**外国人材の適正な雇用管理等を支援**するため、セミナーの開催や啓発チラシ・ポスターを作成しました。

農福連携の推進 ～障がい者など多様な人材の雇用支援～

○ 「農福連携」って何？動画やパネルで紹介

農業分野と福祉分野の連携を一層深め、農福連携への理解を深めていただくため、「**農福連携動画**」を作成し、テレビでの**CM放映**や**YouTubeでの配信**をしました。

また、県庁、合同庁舎ロビー等に、**取組紹介パネル**を展示しました。



【農福連携動画の一場面 YouTube 動画配信】



【県合同庁舎等でのパネル展示】



【お試しノウフク】

○ 「お試しノウフク」の実施

雇用実績がない農業者と障がい者との作業体験「**お試しノウフク**」を実施しました。

農業者11経営体、障がい者82名の参加がありました。

施策展開 2 消費者に愛され信頼される信州農畜産物の生産

トピック

5

県オリジナル米「風さやか」のブランド力向上～食味コンテストの開催～

○ 第1回「風さやか」食味コンテストを開催

長野県産「風さやか」の生産農家の技術研鑽と「風さやか」のブランド力向上につなげることを目的に、第1回「風さやか」食味コンテストを小諸市において開催しました。

長野県全域から応募のあった60点の中から、機械判定により選抜された20点について、10名の官能審査員による食味審査を行い、上位8点を表彰しました。

長野県知事賞を受賞した(農)野沢農産生産組合の「風さやか」は、特に食味・外観において優れており「おいしいお米」として審査員から高評価が得られました。

受賞者は、高品質な「風さやか」を日本中でご賞味いただけるよう今後も努力していきたいと話していました。



【食味審査】



【県知事賞の表彰】

【受賞者一覧】

長野県知事賞	(農) 野沢農産生産組合 (野沢温泉村)
「風さやか」推進協議会 会長賞 (2者)	(有) 細田農産 (安曇野市) 丸山 敏光 (松本市)
「風さやか」推進協議会 優秀賞 (5者)	掛川 茂雄 (佐久市) (農) 田原 (伊那市) 佐藤 次子 (東御市) 降旗 治喜 (安曇野市) (農) やなぎはら (飯山市)



【PRキャラクター：風さやかちゃん】

トピック

6

持続可能な農業の推進 ～農林水産省主催のコンクールに県内農業者が入賞～

○ 未来につながる持続可能な農業推進コンクール

県では、農業農村支援センターを中心としたGAP指導員によるGAPの推進を図るとともに、長野県有機農業プラットフォームや環境保全型農業直接支払交付金の活用などにより環境保全型農業の取組を支援しています。

このたび、持続可能な農業生産活動の取組で顕著な成績をあげている農業者を表彰する農林水産省主催のコンクールにて、県内農業者の取組が**高く評価され、入賞を果たしました。**

部門・受賞者・受賞名	受賞名・評価された点
GAP 部門 (株)ベジーツ (株)ベジーツファーム 【農産局長賞】	<ul style="list-style-type: none"> ・GAPの実践で、資材発注を見直し ⇒不良在庫を約6割削減 ・作業計画作成で人員配置を再考 ⇒作業の効率化、労働時間を年間1人あたり 100時間削減
有機農業・環境保全型 農業推進部門 (株)Wakka Agri 【関東農政局長賞】	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全のため農薬を使用しない栽培の実践 ・有機農業で効率的な生産を図るため、植え傷みの少ない「みのる式ポット苗箱」の利用 ・輸出事業者 Wakka Japan と連携した海外展開



【GAP 部門表彰】



【有機・環境保全部門表彰】

「クイーンルージュ®」の市場デビュー～安定生産・品質向上対策とプロモーションの実施～

○ 安定生産・品質向上対策

技術者向け安定生産指導研修会を開催し、主に新梢管理の徹底による園内受光管理徹底技術について技術習得や地域での栽培上の課題等に対する意見交換を行うとともに、JA等の技術者を対象にしたオンラインによる**目揃い会兼適期収穫研修会**を開催し、各産地の果房の品質確認や適期収穫に向けた留意点を共有しました。



【技術者向け安定生産指導研修会】

○ プロモーション活動

9月22日に県庁にて**阿部知事**による「クイーンルージュ®」の市場デビューとあわせたプロモーション活動の発表が行われました。

10月1日には、JA全農長野協力のもと、3大都市圏（東京・大阪・名古屋）市場関係者向け知事ビデオメッセージを配信し「クイーンルージュ®」の認知向上に努めるとともに、果実専門店やホテル等でPR活動が行われ、購入者から、「**とても甘くて食感もよく、食べ応えがある**」等、**好評**をいただきました。



【知事によるビデオメッセージの配信】

スマート施設園芸の推進 ～施設果菜類等の高品質安定生産に向けて～

○ 環境モニタリングシステムお試し導入の実施

スマート施設園芸の普及に向け、令和元年度から実施しているお試し導入事業により、きゅうり生産ほ場へ**環境モニタリングシステム「みどりクラウド」**の貸し出しを行いました。

○ 研修会の開催

環境モニタリングシステムの導入推進検討会をWeb開催し、78名が参加しました。複数のお試し導入ほ場をタブレットで現場中継しながら、県外からの外部講師も交えて積極的な意見交換が行われました。

また、ミニトマトやアスパラガスの軽労化技術として期待される収穫ロボットについて、トップランナーであるinaho株式会社が開発中の最新ロボットのWeb実演会を開催しました（51名参加）。



【環境モニタリングシステム導入推進検討会】



【アスパラガス自動収穫機の実演会】

県産花きの消費拡大プロモーション～コロナ禍での花のある暮らしの推進～

○ 花を目にする機会や花と触れ合う機会の提供

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い増加した家庭内花き消費をさらに推進し、社会情勢の影響を受けない消費体系を確立するため、関係機関と連携した**花き消費拡大プロモーション**を実施しました。

花の飾り方デモンストレーションやフラワーデザインコンテスト等を実施した**信州サマーフラワーフェスティバルの開催**や、**長野駅・松本駅**での**県産花きの花飾りの常設展示**など、花を目にする機会を増やすことで、**花への興味関心の向上**を図りました。

また、**小中学校での花育教室**を県内28校で実施し、計4,654名の児童に花とふれあう機会を提供し、若年層への**花の魅力を発信**しました。



【信州サマーフラワーフェスティバル】



【小学校での花育授業】

安全安心なきのこ生産 ～異物混入対策の推進～

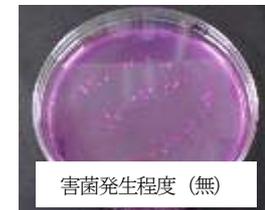
○ 指導者を対象とした研修会の開催

きのこ産地における異物混入は自主回収、廃棄だけでなく、産地のブランド力低下など、多大な悪影響を招く恐れがあることから、**異物混入防止及び害菌対策を推進**するため、技術員を対象にした研修会を開催し、51名が参加しました。研修会では、異物混入事例や対策方法、GAPにおける食品安全の取組を紹介したほか、**野菜花き試験場菌部で開発されたきのこ害菌の選択培地**について説明するとともに、グループワークを実施し、意見交換を行いました。

本選択培地では、これまで汚染源の特定が困難であった**重要病害菌を効果的に検出**できるようになることから、今後の害菌対策での活用が期待されます。



清掃・対策前



清掃・対策後

【選択培地を活用した害菌の発生状況確認】

スマート畜産の推進 ～省力で生産性の高い畜産を目指して～

○ スマート畜産機械のお試し導入

畜産分野では、早くからスマート農業技術の導入が始まっています。令和3年時点で、県内95件の経営体で各種技術が導入され、**酪農・肉用牛経営体**（成牛20頭以上）においては、**約3割でスマート畜産技術が導入**されています。

特に、令和元年度からお試し導入を行っている**牛群管理システム**や**分娩監視装置**を活用する経営体は、前年度の調査から約1.5倍に増加しました。また、つなぎ飼いが多い酪農においては、**自動給餌機**の導入も進んでいます。

令和3年12月には、Zoomを活用した酪農若手研修会を開催し、県内の先進事例を紹介するとともに、機械メーカーから情報提供していただきました。



【広く導入が進む自動給餌機】

地球温暖化緩和技術の開発に着手 ～ゼロカーボン実現に向けて～

○ 地球温暖化緩和技術の開発と実証を開始

地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出は、農林水産分野でも問題となっています。例えば、牛のげっぷに含まれるメタンは、CO₂換算で農林水産分野から排出される量の約35%と推定されます。県農業関係試験場では、水田から発生するメタンや牛のげっぷに含まれるメタンの抑制など4課題について、**温室効果ガスの排出を抑制するための技術開発と実証を令和3年度から開始**しました。

○ 実証結果の発信

干し柿の製造副産物の柿皮から作製したパウダーの給与で牛の第一胃内メタン濃度が低下することを情報発信

- ・柿皮パウダーを4週間、400g/日給与したところ乳用牛・肉用牛とも第一胃内のメタンガス濃度が低下
- ・体重など健康状態に大きな変化なし、乳量の減少なし
- ・今後は、最低給与量や給与間隔、牛の健康や生乳・枝肉などへの影響を検証・技術確立し、普及を目指す



【柿皮パウダーを餌にふりかけて牛へ給与】

安定した農業用水の供給を確保 ～伊那西部地区機能保全事業の完了～

○ 農業水利施設の更新（伊那市伊那西部地区）

伊那西部地区は、天竜川右岸に広がる農地 2,561ha を有する農業地帯です。国営伊那西部農業水利事業（S47～62年度）で建設された揚水機場により、農業用水が段丘の上部へも供給され、広大な優良農地に多様な農作物が生産されています。

老朽化による農業水利施設の機能低下に対応するため、平成24年度から国営事業により**施設の長寿命化計画に基づく機能保全事業**が実施され、**令和3年度に完了**しました。本事業により、揚水機場のポンプや水槽の補修・改修及び水管理システムの更新等が行われ、**施設管理者の維持管理費軽減**や**農業用水の安定供給**が図られました。



【更新した水管理システム】

荒廃農地を収益性の高い果樹園へ ～農地中間管理機構との連携～

○ 生産基盤整備と荒廃農地の解消（長野市綿内東町地区）

長野市の綿内東町地区は、扇状地に広がるりんごを中心とした果樹栽培地域でしたが、ほ場が不整形で急勾配のため、作業の機械化や高密度植・新しい化栽培などの省力栽培の導入が困難な状況でした。それにより担い手への農地集積が進まず、農家の高齢化も相まって荒廃農地の増加が課題となっていました。

このため、ほ場整備により区画の整形、勾配修正等を行うとともに、**農地中間管理機構を通じ、担い手へ農地を集積することで、営農効率の向上や荒廃農地の解消**を図っています。また「**りんご新しい化栽培**」や**ICT**などの**新技術の導入**により、生産性・収益性の高い果樹園地としての再生を目指します。

令和4年3月末に山新田工区約10haの整備が完了し、令和4年春には栽植が始まりました。

【整備前】



【整備後】



施策展開3 需要を創出するマーケティング

トピック
15

「おいしい信州ふード」による県産食材に魅力発信 ～共感と信頼の向上へ～

○ おいしい信州ふードキャンペーンの展開

信州の旬の食材や直売所情報などを新聞広告により定期発信したほか、信州を味わう日特別メニューの提供、地域の食の魅力を再発見する直売所ツアーの開催等を企業・団体と連携して実施しました。

また、ホームページに伝統野菜やサステイナブル専用ページを新たに作成し、発信を強化しました。

- ▶新聞広告掲載：毎月第2日曜日、計10回掲載
- ▶信州を味わう日特別メニュー提供：信州大学松本キャンパス100食
- ▶地域の食の魅力を再発見する直売所ツアーの開催：1回、25名
- ▶ホームページアクセス数：1,048,497件（R3）



【信州を味わう日メニュー】
（信州プレミアム牛肉ステーキ丼）



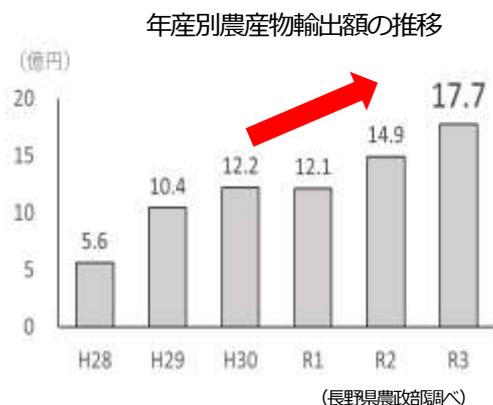
【新たに作成した伝統野菜のHP】

トピック
16

県産農産物の輸出促進 ～輸入規制国への対応と輸出商流の回復に向けて～

○ 長野県農産物輸出額（県推計値）

令和3年産長野県農産物輸出額は、台湾・香港の富裕層の旺盛な需要により、ぶどう・もも・市田柿等の高級果実を中心に輸出額が増加したこと、輸出先国の輸出規制に合わせた生産・出荷対応を的確に実施したこと、更には、コロナ禍において、海外での内食需要が増加し、米等の輸出が伸びたことなどにより、17億7千万円(対前年比118%)となり、平成25年に調査を開始して以来、最高額となりました。



トピック
17

信州プレミアム牛肉の魅力発信 ～認知度向上と銘柄の定着を目指して～

○ 信州プレミアム牛肉フェア

京都府の卸業者が参加する「第4回信州プレミアム牛肉オール信州共進会 in 京都」に併せたフェアの開催及び食の専門雑誌「あまから手帖」への掲載により、「信州プレミアム牛肉」の認知度向上と販売促進を図りました。

- ・フェア内容：精肉店での店頭販売、県産食材プレゼント企画
- ・開催期間：令和3年11月15日（月）～12月14日（火）
- ・開催店舗数：販売店、飲食店45店舗（京都35、大阪2、東京3、その他5）※前年度実施店舗38店舗（7店舗増）



【食の専門誌「あまから手帖」】

食と農をつなぐLFPプラットフォームの形成～新商品開発への支援～

○ 「地域食農連携プロジェクト推進事業（LFP）」プラットフォームの形成

地域の農産物等を活用した持続可能なビジネスモデルを創出するため、地域の農業者、加工・流通・販売・観光など食と農に関わる多様なメンバーがプラットフォームを形成して、課題解決に向け継続的に協議・検討を進める場づくりを行い、マーケティング、試作品製造等の取組を支援しました。



【えのき入りメンチカツ】

○ 「えのき入りメンチカツ」の開発(ローカルフードビジネス)

県産えのきたけの価値を県民等に再認識してもらうため、きのこ生産者と食品加工業者、管理栄養士が連携して、食育に活用できるハンドブック（キノコのススメ）を作成しました。

また、**県産食材(えのきたけ)を使ったメンチカツを開発し、学校給食への提供**などにより、食育・情報発信を実施するとともに、動物性原材料不使用のえのきハンバーグを開発し、クラウドファンディングサイトを活用し目標を超える支持を得ました。



【クラウドファンディングサイトへの掲載】

施策展開4 本物を味わう食と食し方の提供

県産食材を食べて応援 ～コロナ禍での消費の喚起～

○ 県産食材の給食提供と食育授業

全国的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、売上げが減少している県産食材について、小中学校等での給食提供や食育体験を通じて家庭内消費を促す取組を全県の小中学校等で実施しました。



【学校給食献立】
(信州プレミアム牛肉の焼き肉)

● 学校給食への食材提供一覧

提供品目	提供学校数(校)	延提供者数(人)	提供量(kg)
県産牛肉	538	268,987	14,120
信州サーモン	264	98,829	3,918
信州黄金シャモ	88	27,580	1,465
ニジマス	35	13,439	729
鯉	5	1,725	84
計	538	410,560	20,316



【栄養教諭による食育授業の風景】

○ 地産地消・地消地産フェアの開催

県産食材の新たな販路拡大を推進するため、直売所・小売・宿泊施設・飲食店等において、消費を促すPRとともに、県産食材の販売やメニューを提供。更には、テレビ・ラジオ・新聞等を通じた広報活動、**県産食材のプレゼントキャンペーン**（県産牛肉、信州サーモン、県産米など）を積極的に実施しました。

● 地産地消・地消地産フェア取組実施施設 (施設)

小売店	飲食店	宿泊施設	直売所	宅配	計
503	76	42	7	1	629



【売り場からテレビ中継】

施策展開5 しあわせな暮らしを支える豊かな食の提案

トピック
20

未来を担う子どもたちへの信州の食の伝承 ～食の大切さを伝える～

○ 調理師会と連携した「味覚の授業」の実施

食の大切さについて理解を深める味覚の一週間「味覚の授業」を調理師会ご協力の下、11月に安曇野市立堀金小学校の5年生3クラス86名を対象に開催しました。

授業では、**味の基本の五味**（甘味、塩味、苦味、酸味、うま味）についての学習のほか、長野県産えのきたけ、大根、じゃがいも、人参、ワカメなどの素材を使用し、だし汁をベースとした具沢山みそ汁を作る調理実習を行い、**食の楽しさ**を学びました。

児童たちは、かつお節を削る体験をしたり、長い昆布を触ったりしながら調理したことで、**味覚の奥深さと食の大切さ**を直に感じ、最後に「**地産地消**」について地産地消推進キャラクター“**旬ちゃん**”と一緒に考えたことで、**地元の食材を美味しく味わう意義**と知識を深めました。



【旬ちゃんと調理師会などの皆さんとともに】



【昆布とかつお節で出汁をとった味噌汁】

施策展開6 持続的な農業生産活動を支える基盤づくり

トピック
21

農村の暮らしを守る防災減災対策の推進～防災重点農業用ため池の耐震補強～

○ 防災重点ため池の整備

県内には1,800余りの農業用ため池があります。このうち、決壊により浸水が想定される地域に家屋や公共施設等があり、居住者又は利用者に被害を与えるおそれがあるため池を「**防災重点農業用ため池**」に指定しています。

大規模な地震や豪雨から、**県民の生命及び財産を保護**するため、「**防災重点農業用ため池に係る防災工事等推進計画**」を策定し、防災工事等を集中的かつ計画的に進めています。



【耐震性能が不足していた堤体】

○ 松本市^{たみぞ}田溝池

松本市の田溝池は、昭和7年に築造されたため池で、劣化した洪水吐等の改修を行ってきましたが、堤体の耐震性能が不足していることが判明し、地震時に決壊して下流域の農地、家屋、公共施設等に被害が生じるおそれがありました。

このため、**堤体の耐震補強**と緊急時に速やかにため池の水位を下げるための**緊急放流ゲートの設置**を行い、**安全性の向上**を図りました。



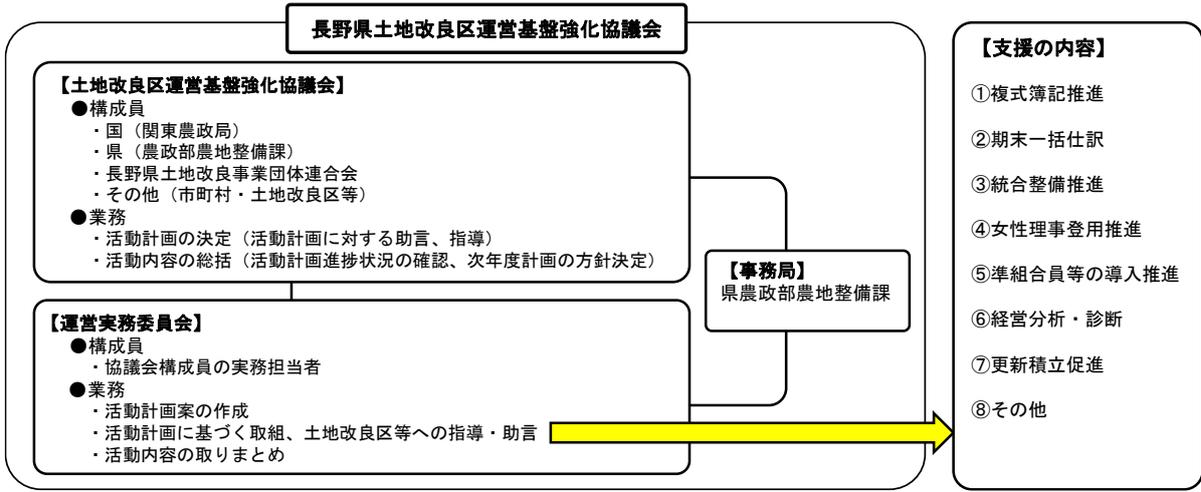
【堤体の耐震補強と緊急放流ゲートの設置】

農業基盤を支える土地改良区の運営基盤強化～長野県土地改良区運営基盤強化協議会の設置～

○ きめ細やかな支援による土地改良区の体制強化

土地改良区は、農地や農業用水路等の土地改良施設の維持管理や整備を通じて、**地域農業の発展や国土・環境の保全等に大きな役割**を果たしていますが、農地や組合員数の減少、高齢化などにより運営基盤が脆弱化しており、その対策が必要となっています。

そこで令和4年3月に国、県、長野県土地改良事業団体連合会等の関係機関が、「**長野県土地改良区運営基盤強化協議会**」を設置しました。これにより、複式簿記支援や経営分析、合併、解散、組織変更に関する指導助言、女性理事の登用や准組合員制度の導入促進などの土地改良区の取組をきめ細やかに支援する体制を整備しました。



施策展開7 多様な人材の活躍による農村コミュニティの維持

農ある暮らしを目指す皆さんを応援します～農ある暮らし相談センター～

○ 信州農ある暮らしオンライン等セミナーの開催

農ある暮らし実践者をゲストに迎え、農ある暮らしの魅力を直接伝えるセミナーを開催しました。銀座NAGANOを主会場としつつ、**オンラインを活用**し、全国から申し込みがあった幅広い世代の参加者に、**信州での農ある暮らしの魅力や始め方を紹介**しました。



【オンラインセミナー】



【農ある暮らしのガイドブック実践編】

○ 農ある暮らしのガイドブック実践編の作成

令和元年度に作成した、農ある暮らしを紹介するガイドブック「入門編」に続き、**信州での様々な農ある暮らしを紹介**し、どうやって始めればよいか、自身にあったスタイルを6つのステップで丁寧に解説する「**実践編**」を作成しました。県や市町村の参加する相談会での配布や、関係団体・民間窓口等に配架し、長野県への移住PRツールとして活用しています。

施策展開8 地域の強みを活かした農村景観や地域資源の活用

トピック
24

棚田を核とした中山間地域の活性化 ～企業等と連携した棚田保全～

○ 「棚田パートナーシップ協定」第2弾の締結

多様な主体と連携した棚田保全と地域活性化を図るため、令和3年5月27日に、「**稲倉の棚田地域振興協議会**」と「**千曲市棚田保全推進会議**」が「**㈱八十二銀行**」と、阿部知事立会いのもと県内2件目となる「**棚田パートナーシップ協定**」を締結しました。

㈱八十二銀行は、優れた自然環境や景観の恩恵を受ける産業・事業者が多い長野県において「棚田は貴重な財産」との強い企業理念があり、銀行創立90周年の記念事業として、今年度、棚田支援の取組を開始、棚田保全団体への資金援助を行うとともに、行員とご家族が田植え作業等の保全活動に参加し汗を流しました。また、収穫した棚田米を「子ども食堂」をサポートするNPO法人に寄付するなどの取組も進めています。



【県庁で開催された協定締結式】



【八十二銀行のオーナー田を示す木杭を設置】

トピック
25

地域資源を活用した小水力発電 ～売電収入により地域の活性化につなげる～

○ 野沢温泉村で初めての小水力発電施設が稼働開始

下高井郡野沢温泉村に、**村で初めてとなる小水力発電所**（まくね川小水力発電所）が建設され、**令和4年3月から稼働**が始まりました。

まくね川は小規模な農業用水路で流量は多くありませんが、大きな落差を活用し、発電出力は83kW、年間発電量は53万4000kWhを見込んでいます。

完成した発電所から生み出される電気を電力会社へ全量売電する計画で、収入は村が管理する農業集落排水施設の運営費や土地改良施設、公的施設の**維持管理費に活用**する計画です。



【沈砂池と上部水槽】



【発電所】

トピック
26

被災した農地・農業用施設の97.0%が復旧完了～継続した市町村支援～

○ **被害状況**

令和元年東日本台風（台風第19号）豪雨により、東北信地域を中心に、水田・樹園地などの**農地**、頭首工・農業用水路・用排水機場・農道などの**農業用施設に甚大な被害が発生**し、被害額は562億円と、**記録が残る過去40年間で最大**となりました。

県では、発災直後から、被災箇所の調査、河川管理者など関係機関との協議、復旧工法の検討などについて、市町村を支援してきました。

○ **国庫補助災害復旧事業**

- 災害復旧工事は、市町村が事業主体となり、国庫補助災害復旧事業を活用することを基本とし、国庫補助の要件を満たさない小規模な復旧工事については、市町村が単独事業として実施しています。
- 県平均の国庫補助率は、**令和元年東日本台風災害が激甚災害に指定されたことから、農地96.8%**（基本補助率50%）、**農業用施設98.5%**（基本補助率65%）に**高上げ**されました。
- 国庫補助災害復旧事業は、河川復旧工事との調整が必要な一部の農地や頭首工等を除き、**令和4年3月までに概ね完了**しました。

<農地の復旧状況（令和4年3月末）>

項目	田	畑	計
被害箇所数（カ所）	2,827	4,199	7,026
面積（ha）	538	1,121	1,659
被害額（百万円）	6,533	21,031	27,564
国庫補助箇所数（カ所）	558	2,353	2,911
工事着手箇所数（カ所）	558 (100%)	2,353 (100%)	2,911 (100%)
工事完了箇所数（カ所）	552 (98.9%)	2,344 (99.6%)	2,896 (99.5%)

<農業用施設の復旧状況（令和4年3月末）>

項目	頭首工	水路	機場	農道	ため池等	計
被害箇所数（カ所）	771	1,769	60	697	42	3,339
被害額（百万円）	13,223	5,064	6,672	3,418	227	28,604
国庫補助箇所数（カ所）	330	224	37	140	25	756
工事着手箇所数（カ所）	330 (100%)	224 (100%)	37 (100%)	140 (100%)	25 (100%)	756 (100%)
工事完了箇所数（カ所）	257 (77.9%)	209 (93.3%)	36 (97.3%)	135 (96.4%)	23 (92.0%)	660 (87.3%)

○ 工種別の復旧状況

農地・農業用施設の復旧工事は、原形復旧を基本としますが、必要に応じて、用排水機場の浸水防止対策など、**再度災害防止のための復旧**も進めています。

➤ 農地 « 完了2,896か所/2,911か所 (99.5%) »

- ・ 河川の氾濫や堤防決壊により土砂が堆積した農地について、建設業者による土砂の撤去・運搬を実施しました。
- ・ 崩落した水田畦畔や畑地法面について、フトン簀、ブロック積等により復旧しました。
- ・ 河川の氾濫により流失した農地について、建設部など河川管理者が行う**河川復旧工事と連携して復旧**しました。



【水田に堆積した土砂の撤去及び整地が完了（佐久市）】

➤ 頭首工[※] « 完了257所/330か所 (77.9%) »

- ・ 河川の氾濫により損壊又は流失した頭首工について、建設部など河川管理者が行う**河川復旧工事と連携して復旧**しました。
- ・ 営農再開までに本復旧が間に合わない頭首工については、仮設水路など**仮復旧により農業用水を確保**しました。

※頭首工：河川から農業用水を取水するための施設



【頭首工の復旧が完了（佐久穂町）】

➤ 水路 « 完了209か所/224か所 (93.3%) »

- ・ 土砂が堆積した水路について、営農に支障が生じないように土砂を撤去しました。
- ・ 崩落した山腹水路について、コンクリートやブロック積により復旧しました。なお、既存施設がコンクリート二次製品の場合は、可能な範囲で再利用しました。

➤ **用排水機場** « 完了36か所/37か所 (97.3%) »

- ・ 河川の氾濫により損壊した用排水機場について、ポンプ設備、建屋等を復旧しました。
- ・ 浸水により故障した制御盤などの電気設備について、機材の交換等により復旧するとともに、同規模の災害で再び浸水することのないよう、**浸水防止対策（電気設備の高所化等）**を講じました。
- ・ 長野市の浅川第一排水機場の復旧は、高度な技術力や複雑な河川協議が必要なため、県が市から工事を受託し、復旧しました。



【浅川第一排水機場の復旧（長野市）】

➤ **農道** « 完了135所/140か所 (96.4%) »

- ・ 損壊や路肩が崩落した農道について、盛土やブロック積による路肩の復旧、アスファルト舗装の打ち替え等により復旧しました。



【流出した農道橋の復旧が完了（上田市）】

➤ **ため池等** « 完了23か所/25か所 (92.0%) »

- ・ 崩落したため池の堤体について、再築堤、法面復旧を実施しました。
- ・ 河川の増水により損壊した農道橋について、河川復旧工事と連携して復旧しました。

第2章

本県の食と農業・農村の動向

令和3年産農業農村総生産額（県農政部推計）

令和3年産の県内の農業農村総生産額は、農業関連産出額は増加したものの、春先の凍霜害の影響などにより農産物産出額が減少したことから、前年の3,119億円を下回る3,018億円（対前年比96.8%）となりました。

◆ 農業農村総生産額 3,018 億円（農産物産出額 2,817 億円、農業関連産出額 201 億円）

➤ 農産物産出額 2,817 億円（対前年比 96.3%）

花きなどの一部の農産物については、新型コロナウイルス感染症により減少した需要が回復傾向にあり増加したものの、米は、需給バランスの悪化により価格が下落したこと、野菜は、豊作により本県主力の葉物野菜を中心に価格が安価であったこと、果実は、春先の凍霜害の影響などにより主にごんの生産量が大幅に減少したことなどから、全体では前年に比べて109億円の減少となりました。

➤ 農業関連産出額 201 億円（対前年比 104.1%）

E Cサイトの活用やWeb 商談会への参加等の販売力強化の取組により農産加工の産出額が増加したことなどから、全体では前年に比べて8億円の増加となりました。

長野県の農業農村総生産額（長野県農政部推計）

区 分	H27年 (基準年)		R2年		対前年比 2年/1年	R3年①		対前年比 3年/2年	R4年② (目標年)	①/②
	億円	%	億円	%		億円	%			
農 産 物 産 出 額	2,916	100.0	2,926	100.0	102.5	2,817	100.0	96.3	3,000	93.9
米	422	14.5	444	15.2	91.5	408	14.5	91.9	437	93.4
麦 類	4	0.1	4	0.1	100.0	4	0.1	100.0	5	80.0
雑 穀 ・ 豆 類	13	0.4	10	0.3	62.5	10	0.4	100.0	18	55.6
野 菜	899	30.8	818	28.0	104.2	803	28.5	98.2	875	91.8
果 実	558	19.1	656	22.4	111.4	609	21.6	92.8	605	100.7
花 き	149	5.1	134	4.6	97.1	142	5.0	106.0	160	88.8
その他の農産物	67	2.3	59	2.0	89.4	69	2.4	116.9	90	76.7
畜 産	308	10.6	298	10.2	99.0	303	10.8	101.7	305	99.3
栽 培 き の こ	496	17.0	503	17.2	106.6	469	16.6	93.2	505	92.9
農 業 関 連 産 出 額	202	100.0	193	100.0	77.5	201	100.0	104.1	300	67.0
水 産	50	24.8	51	26.4	87.9	51	25.4	100.0	55	92.7
農 産 加 工	71	35.1	110	57.0	100.0	116	57.7	105.5	145	80.0
観 光 農 業	81	40.1	32	16.6	39.5	34	16.9	106.3	100	34.0
農 業 農 村 総 生 産 額	3,118	—	3,119	—	100.5	3,018	—	96.8	3,300	91.5

注1) 農産物産出額

- ・平成27年産は、農林水産省大臣官房統計部公表数値である。
- ・令和3年産は現在公表されていないため、県農政部の推計値である。（農林水産省公表の作物別生産量等に、JA等の販売単価等を基に県が独自推計した単価を乗じて算出した）

注2) 農業関連産出額

- ・県農政部の推計値である。

農産物主要品目の令和3年産生産実績

【土地利用型作物】

米	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	32,300	32,000	31,800	31,500 (99%)	31,000
生産量 (t)	203,200	198,400	192,700	189,900 (99%)	194,222

【3年産解説】

作付面積は、需要に応じた主食用米の適正生産を進めたことから、前年をわずかに下回った。
生産量は作付面積の減少のほか、8月の天候不順の影響により、単収が前年よりも低下し、作況も97のやや不良となったことから、前年をわずかに下回った。
価格は、コロナ禍による需要減少が続く中、北海道など主産地が豊作基調となったことから、前年を下回る水準となった。

麦	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	2,740	2,810	2,750	2,830 (103%)	3,170
生産量 (t)	9,250	9,170	8,960	8,580 (96%)	11,841

【3年産解説】

作付面積は、ブロックローテーションによる作付調整や作物転換が進んだこと等により、前年をやや上回った。
生産量は、大規模な凍霜害により、大幅な減収となり、前年をやや下回った。
価格は、大麦、小麦とも前年並みとなった。

大豆	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	2,120	2,030	1,960	2,010 (103%)	2,300
生産量 (t)	3,540	2,840	2,800	2,990 (107%)	4,282

【3年産解説】

作付面積は、ブロックローテーションによる作付調整や作物転換が進んだこと等により、前年をやや上回った。
生産量は、前年をかなりの程度上回ったものの、麦作後の長雨による播種遅れや湿害により、単収は依然として低い水準となっている。
価格は、前年並みとなっている。

そば	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	3,970	4,410	4,600	4,460 (97%)	4,400
生産量 (t)	2,340	3,350	3,960	2,500 (63%)	3,872

【3年産解説】

作付面積は、令和2年産の大幅な価格下落の影響等により、前年をやや下回った。
生産量は、秋そばの播種期である8月の長雨による播種遅れや播種直後の湿害等により、前年を大幅に下回った。
価格は生産量が減少する中、外食・観光需要が回復傾向となったこと等により需給が引き締まり、前年を上回っているものの、依然としてコロナ禍前よりも低い状況にある。

【果 樹】

りんご	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
栽培面積 (ha)	7,870	7,500	7,450	7,330 (98%)	7,728
生産量 (t)	157,200	127,600	135,400	101,049 (75%)	161,589

【3年産解説】
 作付面積は、高齢化による生産者の減少等により、前年をわずかに下回った。
 生産量は、春先の凍霜害をはじめ、降雹、突風など度重なる天候不順により、前年を大幅に下回った。
 価格は、天候不順により品質低下はしたものの、全国的に数量が減少したため、前年をかなり上回った。

ぶどう	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
栽培面積 (ha)	2,400	2,530	2,560	2,620 (102%)	2,472
生産量 (t)	28,300	31,700	32,300	28,800 (89%)	29,220

【3年産解説】
 作付面積は、多品目からの転換や新規就農者の増加により、前年をわずかに上回った。
 生産量は、天候不順による減少と品目転換等による改植による結果樹面積の減少により、前年をかなり大きく下回った。
 価格は、全国的な需要の増加により、前年をかなり大きく上回った。

なし	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
栽培面積 (ha)	875	823	787	724 (92%)	804
生産量 (t)	16,500	14,290	15,210	12,095 (80%)	16,600

【3年産解説】
 作付面積は、高齢化や老木化等の影響により、前年をかなりの程度下回った。
 生産量は、4月の凍霜害や低温による受精不良により、前年を大幅に下回った。
 価格は、前年の全国的な不作による高騰の影響もあり、一昨年よりも高い単価ではあるが、前年と比べるとかなり下回った。

もも	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
栽培面積 (ha)	1,120	1,040	1,020	955 (94%)	1,062
生産量 (t)	15,900	12,200	10,300	10,600 (103%)	16,477

【3年産解説】
 作付面積は、高齢化による生産者の減少により、前年をかなりの程度下回った。
 生産量は、R2年に多発したモモせん孔細菌病の発生が少なく、前年をやや上回った。
 価格は、全国的な数量不足から、前年をやや上回った。

【野菜】

レタス	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	5,940	6,040	5,760 (非結球 1,370)	5,440 (94%)	5,856
生産量 (t)	191,500	197,800	182,200 (非結球 30,100)	178,000 (98%)	194,444

【3年産解説】 (出典)レタス:野菜生産出荷統計(春野菜、夏秋野菜)から推計 非結球レタス:R2地域特産野菜生産状況調査
 作付面積は、他品目への転作により、前年をかなりの程度下回った。
 生産量は、春先は豊作であったが、8月中旬の長雨の影響で生産量が減少したことで、前年をやや下回った。
 価格は、春先は豊作により低落したものの、8月中旬の長雨による全国的な品薄で高騰し、以降は堅調に推移したことから前年をやや上回った。

はくさい	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	2,760	2,820	2,730	2,880 (105%)	2,587
生産量 (t)	222,300	231,000	213,800	218,000 (102%)	214,286

【3年産解説】
 作付面積は、前年の販売環境が良かったことで、栽培意欲が高く、前年をやや上回った。
 生産量は、春先より豊作であったため、前年をわずかに上回った。
 価格は、シーズンを通し豊作基調であったため、価格が低落。前年を大幅に下回った。

キャベツ	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	1,490	1,550	1,440	1,562 (108%)	1,718
生産量 (t)	63,700	70,400	61,830	72,540 (117%)	75,492

【3年産解説】
 作付面積は、他品目からの品目転換が進んだことから、前年をかなりの程度上回った。
 生産量は、豊作により単収が向上し、前年を大幅に上回った。
 価格は、シーズンを通し豊作基調であったため、価格が低落。前年を大幅に下回った。

ブロッコリー	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	862	968	1,031	1,092 (106%)	1,101
生産量 (t)	8,240	10,400	10,230	11,370 (111%)	12,159

【3年産解説】
 作付面積は、夏はくさいの転作やレタスの輪作品目としても積極的に導入されたことから、前年をかなりの程度上回った。
 生産量は、豊作により単収が向上し、前年をかなり大きく上回った。
 価格は、シーズンを通し豊作基調であったため、価格が低落。前年を大幅に下回った。

アスパラガス	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	971	868	811	730 (90%)	1,021
生産量 (t)	2,390	2,650	2,080	2,011 (97%)	3,654

【3年産解説】

作付面積は、高齢化等による生産者の減少を受けて前年をかなりの程度下回った。
生産量は、春先の凍霜害の影響で落ち込んだことから、前年をやや下回った。
価格は、前年をかなり大きく上回った。

トマト	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	399	327	327	336 (103%)	439
生産量 (t)	20,600	16,200	13,300	14,300 (108%)	23,435

【3年産解説】

作付面積は、前年をやや上回った。
生産量は、好天により豊作基調で、前年をかなりの程度上回った。
価格は、シーズンを通し豊作基調であったため、価格が低落。前年をやや下回った。

きゅうり	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	403	364	371	355 (96%)	430
生産量 (t)	14,900	13,700	13,700	13,900 (101%)	17,351

【3年産解説】

作付面積は、前年をやや下回った。
生産量は、好天により生育順調であったため、前年並みとなった。
価格は、全国的に豊作基調であったため、価格が低落。前年を大幅に下回った。

【花き】

キク	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	120	96	92	91 (99%)	111
生産量 (千本)	32,900	25,200	24,500	24,700 (101%)	33,410

【3年産解説】

作付面積は、スプレー菊でかなりの程度増加、小菊でやや増加したが、輪ギクでは高齢化による縮小によりやや減少し、全体ではわずかに減少した。
生産量は、全体としてわずかに増加した。
価格は、平年並み。

カーネーション	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	84	79	75	72 (96%)	85
生産量 (千本)	51,900	47,000	46,500	44,000 (95%)	59,558
【3年産解説】 作付面積は、高齢化による栽培の縮小等により前年をやや下回った。 生産量は、生産者の減少による作付面積減少等により前年をやや下回った。 価格は、輸入減少の影響を受けて、前年をやや上回った。					

リンドウ	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	33	27	24	23 (96%)	—
生産量 (千本)	3,980	2,900	2,590	2,400 (93%)	—
【3年産解説】 作付面積は、高齢化による栽培の縮小等により前年をやや下回った。 生産量は、生産者の減少による作付面積減少等により、前年をかなりの程度下回った。 価格は、全国的な数量不足により、前年をやや上回った。					

トルコギキョウ	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	48	50	48	47 (98%)	45
生産量 (千本)	12,300	13,200	13,000	12,900 (99%)	12,243
【3年産解説】 作付面積は、高齢化による栽培の縮小等により前年をわずかに下回った。 生産量は、土壌病害の発生等で前年をわずかに下回った。 価格は、全国的な数量不足により、前年をかなりの程度上回った。					

アルストロメリア	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	24	23	25	25 (100%)	26
生産量 (千本)	19,800	20,300	19,500	21,000 (108%)	21,599
【3年産解説】 作付面積は、新規生産者の作付増により、わずかに増加した。 生産量は、コロナ禍での出荷調整があった前年から通常どおりの出荷及び面積増により、かなりの程度増加した。 価格は、前年をかなりの程度上回り、コロナ禍以前並みに回復が見られた。					

鉢花類	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
作付面積 (ha)	86	87	85	84 (99%)	99
生産量 (千鉢)	20,870	21,450	20,270	20,300 (100%)	24,695

【3年産解説】

作付面積は、シクラメンでかなりの程度増加したが、洋ラン等で減少したため、全体としては前年をわずかに下回った。

生産量は、シクラメンで面積増によりかなりの程度増加したが、全体としては前年並みとなった。

価格は、ガーデニング需要増により苗物で前年をやや上回ったが、シクラメンでは小鉢化により単価が低下し、全体としては、前年並みとなった。

【きのこ】

えのきたけ	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
生産量 (t)	81,213	78,111	77,230	79,017 (102%)	85,690

【3年産解説】

生産量は、前年の価格高騰により生産者の増産意欲が高まり、前年をわずかに上回った。

価格は、前年の家庭内消費の増加に比べ、大幅に需要が減退したことから、前年をかなり下回った。

ぶなしめじ	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
生産量 (t)	49,864	50,572	51,965	51,122 (98%)	49,983

【3年産解説】

生産量は、夏期の適正生産の取組により、前年をわずかに下回った。

価格は、前年の家庭内消費の増加に比べ、大幅に需要が減退したことから、前年をかなり下回った。

【畜産】

乳用牛	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
頭数	16,600	14,900	14,800	14,400 (97%)	15,700
生産量 (t)	106,056	90,452	90,105	91,890 (102%)	103,258

【3年産解説】

飼育頭数は、離農などにより前年をわずかに下回ったが、生産性の向上に向けた取組が進み、生乳生産量は、わずかに上回った。

生乳価格は、全国的な消費停滞により、前年をわずかに下回った。

肉用牛	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
頭数	23,000	20,800	20,600	20,500 (100%)	22,825
生産量 (t)	5,548	4,848	4,426	4,160 (94%)	6,010

【3年産解説】

飼育頭数は、平年並みとなった。

生産量は、出荷頭数の減少に伴い、かなりの程度減少したが、枝肉価格は回復し前年を上回った。

豚	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
頭数	74,000	64,600	63,000	61,400 (98%)	82,000
生産量 (t)	11,158	9,492	10,291	9,876 (96%)	12,837

【3年産解説】

飼養頭数は、前年をやや下回り、それに伴い生産量もやや減少した。

価格は、前年並みの高い水準で推移した。

鶏	H27(2015) (基準年)	R1(2019)実績	R2(2020)実績	R3(2021)実績 (R3/R2)	R4(2022) (目標年)
羽数 (千羽)	1,401	1,181	1,217	1,195 (98%)	1,327
生産量 (t)	13,641	13,354	14,287	14,451 (101%)	13,778

【3年産解説】

飼養羽数は、わずかに減少した。

生産量は鶏卵が減少したものの、ブロイラーが増加したため、全体ではわずかに前年を上回った。

鶏卵及び鶏肉の価格は、巣ごもり需要によりいずれも高値となった。

